

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：木邑佳織

所属：京都市立桃陽総合支援学校

記録日：30年2月24日

キーワード：健康管理・生活改善・書き支援・表現・環境づくり・自信・自己肯定感・遠隔授業

【対象児の情報】

- ・小6 11歳男児
- ・障害と困難の内容
 - ◎病弱（肥満症）
 - 書き障害

桃陽総合支援学校は、京都市にある病弱の特別支援学校である。学校隣接の京都市桃陽病院に入院している小中学生が通う本校と京都市内の4つの病院（京大病院・京都府立医大病院・国立医療センター・第二赤十字病院）内にある分教室と4つの病院以外に入院している小中学生のための訪問教育がある。本児は、本校小学部に在籍している。病気治療のために、平日は学校隣接の病院に入院している。週末には、自宅に帰り、家族との時間を過ごす。本校小学部6年は、3月には必ず原籍校に戻り、中学は地元の中学校に入学することになっている。

本児は、小5の11月より肥満症と不登校気味であったことで、入院・入学。不登校の状況は、小5の夏休み明けから1日1～2時間の登校。

【活動進捗】

- ・当初のねらい（計画書の学習目標）と活動による方向性の確認状況

（今年度の学習目標）

- ① 自分の食事や体のことを考えて、食生活や運動に関する知識を身につけたり、傾向を知ったりして、自分でコントロールする。
- ② 書きに代わる有効な手段を身に付け、自分が必要な時に操作し、活用する。
- ③ 話す内容を整理し、場に合わせた表現方法を習得し、発表の場で周りに認めてもらい、自信をもてるようにする。

・実施期間 平成29年4月～平成30年2月

・実施者：①木邑佳織 ②二村裕子 ③大杉仁彦

・実施者と対象児の関係

①小学部長・本児の個別の自立活動の時間（週1時間程度）を担当 ②小学部教諭・本児の担任

③初任者研修指導教員

【活動内容と対象児の変化】

対象児の事前の状況

【体調面】

- ・体重については、病院での食事管理により入学当初より徐々に減っている。外泊すると、食事量を調整できないこともあり、体重が増える傾向がある。
- ・病院では目標体重を設定されていて、食事管理の上、万歩計の使用により院内ウォーキングをしている。しかし、7月頃から気持ちが乗らずできず、体重が減らない一因となっている。
- ・食事についての知識が豊富で、食べたもののカロリーなどを口頭で言うことがある。
- ・運動面は、団体で行うボール運動は全般的に好きである。ただ、走ることは好きではない。
- ・12月頃には痩せて原籍校へ戻りたいと思っていたが、2月～3月頃の退院予定となった。

【学習面】

- ・現在、6年生男子5名の少人数のクラスで学習している。(原籍校は30名程度)
- ・学年相応の学習ができる。現在、学習空白はない。
- ・読書が好きで、知識も豊富。
- ・読みについては、未習の漢字も読むことができる。
- ・書きについては、書きたい気持ちはあるが、形の想起が難しく、書けない。
- ・書きの支援としてキーボードでのローマ字入力を行っている。4月当初、ローマ字や指の位置を覚えていないので、思うように入力できなかった。特に、特殊音節については、ローマ字での入力が困難であった。

「WAVES」の下位検査の評価点から

(28.12月評価)

線なぞり(合格)	形なぞり(合格)	線なぞり(比率)	形なぞり(比率)	数字みくらべⅠ	数字みくらべⅡ
15	5	3	3	11	8

形あわせ	形さがし	形づくり	形みきわめ(2分)	形おぼえ	形うつし
11	9	8	8	5	5

〈WAVESの考察から〉

【目と手の協応に関すること】

- ・「線なぞり」と「形なぞり」の正確性の落ち込みがある。さらに、「形なぞり」については、速く書けない。

【形のとらえ方に関すること】

- ・「形おぼえ」「形うつし」の落ち込みが大きいことから、形を覚えておく力(視覚性記憶)や線と線がどのように交わっているか、線の長さがどのくらいなのかなどをとらえる力(図形構成)が弱いと考えられる。
- ・「形あわせ」「形さがし」などの形態知覚については、平均値程度なので、あまり問題がないと考えられる。

【全体的に】

これらのことから、形をとらえることには問題が少ないため、「読み」の場面では難しい漢字を読むこともできるのではないかと考えられる。「書き」の場面になると、形を覚えておけず書けなかったり、漢字などの一画一画が複雑になってくるととらえられなかったりすると考えられる。また、細かいものを見て手指を動かすことが難しいため、「書き」の困難が見られるのではないかと、考えられる。

「URAWSS」の結果から

〈書き速度〉

(H29.5評価)

課題の種類	書いた文字数	1分間の書字速度	評価
書き課題（有意味文）	74字	24.7字	A
書き課題（無意味文）	81字	27字	A

〈読み速度〉

課題の種類	読んだ文字数	1分間の読み速度	評価
読み課題	73字	438字	A
内容理解	6問中5問正解		

上記の「URAWSS」の結果から、書き・読み速度はA評価で良好である。また、内容理解についても6問中5問正解で、特に問題はないと考えられる。しかし、書き課題で無意味文のほうが書字速度が速いことから、漢字などは想起してではなく、手本を見て写しているのではないかと考えられる。

【対人面】

- 大きな集団だと、恥ずかしがって顔や体を隠そうとする。
- 話を始めると、止まらない。(特に、自分の好きなゲーム・武器・食べ物に関すること。)
- 思ったことをすぐに言葉に出してしまうため、友達とのトラブルが起こった時は、暴言が続き、同じ内容のことを繰り返し発言し、関係の悪さが長引く。
- 時々、できないことに対して悲観的になり、周りの人と自分を比べ、自信をなくしていく様子がある。
- 活動の具体的内容

【①食事や体調のコントロールに関すること】

体調管理に向けて個人で取り組める運動をめざして

実施期間6月～9月



休み時間や課外活動等で好きな遊びや個人でも取り組みやすい運動を指導者と考え、体を動かせるようにすすめていくことをねらった。本児と話をしして校内ウォーキングから始めることにした。継続して行うことが目標のため、「5分ウォーキング」と決めて、1日1回、中間休みか下校前に職員室にいる指導者を呼びにきて、一緒に歩いた。達成状況が目に見えて分かるようにアプリ「レベルアップ todo」を使った。

アプリ

「レベルアップ todo」



アプリ

「Metronome」

ウォーキングの際は、右の写真のように iPad を手にもってアプリ「Metronome」を使って、リズムよく歩けるようにしている。歩いていると、5分はあっという間に過ぎていくので、「あと5分するわ」と自分から言って、夏休み明けからは10分歩くことも増えてきた。



〈校内ウォーキングの様子〉

継続して行い、一人でもできるように取り組みたいと考えていた。しかし、ウォーキングをしながら指導者と話をすることを楽しんでいたり、指導者が時間の確保ができず、本児の意欲も下がり、10月以降は継続できなかった。

自身の食事の量や運動量を把握に向けて

実施期間 6月～7月



アプリ

「シンプル・ダイエット」

アプリ「シンプルダイエット」を使い、日々の体重記録をつける取組をおこなった。当初、保健室で、放課後の他の児童・生徒がいない時間に、体重を量り記録していこうと話をしてしたが、拒否をすることが多く続かなかった。体重の記録については、週2回病院で行っているため、病院での管理に任せることにした。

自分の食事の傾向を知るために

実施期間 9月～2月



アプリ

「Simple Photo」

本児は、週末には外泊という形で、自宅に帰る。週明けには、いつも「〇〇食べた。」と、うれしそうに話をしてくれることが多い。食べたものをアプリ「Simple Photo」で見える化して、自分の食の傾向を知る取組を行った。

- 食べたものを記録することに抵抗感がなく、よく話をする先生たちに「これ何食べたと思う？」などと写真を見せながらうれしそうに話していた。

- 食事記録を指導者に見せながら、「美味しいソースの作り方は…」「チャーハンには水を使わずに作るとおいしいで。」など話し、食事への関心が高いことが分かった。

- 週末は、病院でのカロリー計算された食事と違い、好きなものを食べていることが分かった。ただ、食べたものについてとてもうれしそうに話をする姿から、本児にとっては「食事を制限する」というのではなく、「好きな食事と上手につきあう」という方がいいだろうと、考えた。



<食事の記録画面>

「低カロリーで豪華に見える料理をつくってみよう」

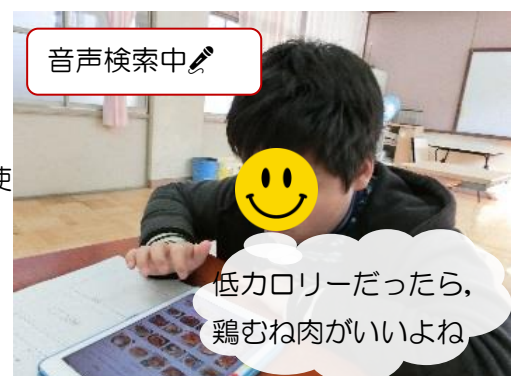
• 食事への関心が高いことと食事に関する豊富な知識があるので、保護者の協力を得て、週末に実際につくってみる取組を始めた。

①まずは、アプリ「You Tube」で料理の検索をする。



アプリ
「You
Tube」

- 使用している iPad mini のソフトキーボードは、本児にとっては小さく入力しづらいので、音声入力機能を使ってレシピ検索を行った。
- 料理に関する知識を生かして、「低カロリーなら鶏むね肉の方がヘルシーだね。」など言いながら、真剣に検索していた。



②次に、動画を見ながらパワーポイントでレシピを入力



アプリ
「Power Point」

- 気に入ったレシピが見つかったら、動画再生をしながら「メニュー名」「材料」「作り方」のページに分けて、パワーポイントで自分のレシピ作りを行った。入力には、主に音声入力を使った。



③週末、タブレットを持ち帰り、レシピを見ながらクッキング

- 作った料理を「Simple Photo」で写真撮影をしてきて、「Power Point」のレシピのページ「できあがり」に追加。家の人に食べてもらった感想をもらってきて「感想」のページに記入した。



<取組をはじめてからの本児の変化>

週明けには、いつもうれしそうに「先生、作ってきたで。」と話してくれた。また、「先生、今週は何にしようかな。」など、次のことを考えて楽しそうに話す姿があった。はじめは、見た目の豪華さにこだわって週末調理をして、「いかに大きい肉か」などにこだわっていた。しかし、レシピ検索の時に、「ハンバーグは合いびき肉がジューシーで美味しいけど、鶏ミンチで作ろう。」など低カロリーのものを考えていた。

【②書きに代わる手段に関すること】

本児は、書字障害の診断を受けている。特に、画数の多い漢字などは、想起で書くと一本線が多かったり、斜めの線の書出し位置が分からなかったりする。テストやノートの文字は、読めないことも多く、ノートは見返しても本児も読むことができないため、復習などできない。本児にとって書きに代わる有効な手段は何かを考え、将来へつながるツールをもてるよう、また学習したことが表現できて、自信につながるよう取り組んだ。



△テストでの作文の文字

本児にとって有効な書きに代わる手段の獲得に向けて 実施期間 4月～9月




①有効な入力方法の選択

入力方法	本児にとっての利点	本児にとっての難点
○ ローマ字（キーボード入力）	今後いろいろな場面で使いやすい	ローマ字の習得が完全でないため、時間がかかる
フリック	スマホを使う時に必要と思っている	表示されるボタンが小さく、指をうまく4方向に滑らせることができず、操作が困難
ペン	簡易で使いやすい	文字の形が整わないので、認識がうまくいかない

50音	50音で並んでいるので分かりやすい	ソフトキーボードのため、小さくて使いにくい
音声	思ったことを書き留めるには便利	使える場面が限られている(原籍校に戻った時に使いづらい)

②キーボードの選択

本児のキーボード入力の様子は、指先を伸ばして1キーずつ打っている。また、手が大きく、細かい指の動きができていない。そこで、どのキーボードが打ちやすいか検証した。

	様子	本児にとっての利点	本児にとっての難点
ソフトキーボード		<ul style="list-style-type: none"> • すぐに出てくる 	<ul style="list-style-type: none"> • タッチが軽すぎて、2回押しをして打ち間違いが多い。 • ボタンが小さくて、隣のキーを押し、打ち間違いが多い。
タブレットPC付属のキーボード		<ul style="list-style-type: none"> • PC 付属のもので、持ち運びに便利 	<ul style="list-style-type: none"> • ボタンが薄くて、押した感覚が乏しい <p>*タブレットPCは学校のもの</p>
○ 大きなキーボード		<ul style="list-style-type: none"> • 打った感覚がわかりやすい。 • 誤ってほかのキーを打つことが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 大きくて持ち運びに不便。

③タッチパッドとマウスについて

	本児にとっての利点	本児にとっての難点
タッチパッド	<ul style="list-style-type: none"> • 簡易に持ち運べる 	<ul style="list-style-type: none"> • 押した感覚が乏しく、操作に時間がかかる
○ マウス	<ul style="list-style-type: none"> • 簡単に合わせたい場所にカーソルを合わせられる • クリックした感覚がはっきりしている 	<ul style="list-style-type: none"> • 持ち運びに不便

これらの検証から、入力方法については、日々の学習での積み重ねなどで、打つ速度も上がってきていることを確認でき、本児の今後の生活の中で十分に使っていけると判断し、ローマ字入力を主に使うことにした。ただ、「スマホを使う時には、フリックがいいよねえ」など、他の入力方法の良さも理解していた。



〈ペン入力の様子〉

また、キーボードは、まず入力に慣れるため、「大きなキーボード」の使用を進めてきた。日ごろの学習の中での使用を継続的に行い、できるだけ使う機会を多く持てるようにした。また、タブレットや大きいキーボードの準備も一人でできるように取り組んだ。

ローマ字入力に慣れるための取組

実施期間 5月～2月



PCソフト「寿司打」

PCソフト「寿司打」でローマ字入力の練習をしてきた。個別学習の時にはいつも楽しみにしていて、「今日は上級にしてみる」など言って挑戦した。

最後にお勘定の場面が出てきて、寿司を食べた量が徐々に増えてきて、早く打てるようになったことが、

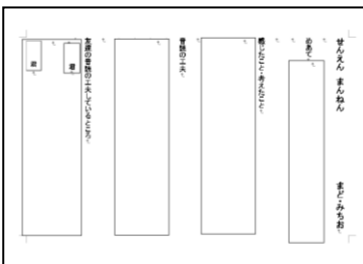
目に見えて分かるので、喜んで取り組んでいた。取り組んでいる中で「もっと速く打てるようになりたいねん。」と話す場面もあり、意欲的に取り組むことができた。



授業中にPC入力でノートづくりをしよう

4月当初から

担任が作った「Word」のワークシートへの、PC入力をすすめてきた。

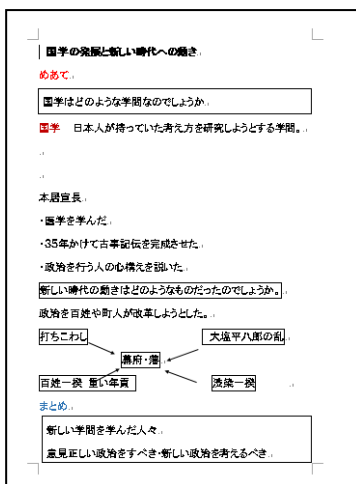


- Wordでは、ワークシートの枠への穴埋めをすると、文全体がずれるなどなかなかうまく入力できないことが多かった。
- ローマ字入力が十分でないこととカーソルが画面上から消えてしまったり、思ったところに移動できなかったりして時間がかかった。

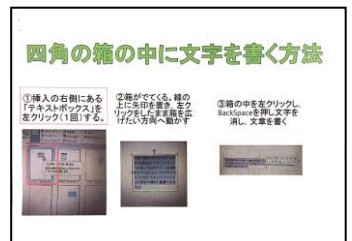


6月頃から

ノートをとる時に、白紙からの入力に変更した。



文字の囲みや矢印のつけかた、また特定のファイルへの保存方法など、一度担任が教えるとすぐに覚えて、実施することができた。ただ、これらの方法を忘れてしまうことがあったので、担任が確認のための手元資料をつくった。資料を見返しながら入力をし、今はみなと同じ速さでスラスラ入力ができるようになった。授業終わりには、教室のプリンターでプリントアウトして、ファイルに綴じていくことも定着した。



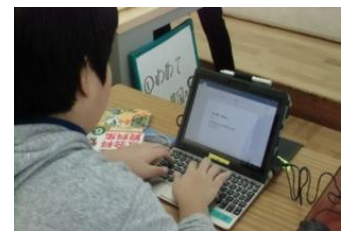
＜Word入力のための確認資料＞



＜事後の変化＞

当初、ローマ字を覚えておらず、指も動きにくかったが、現在はローマ字入力にも慣れて、はじめ打てなかった拗音・撥音などもスラスラ打てるようになった。また、大きなキーボードからPC付属のキーボードでの入力ができるようになり、持ち運びも楽になった。入力の速度もクラスみんなのノートを書く速度と同じか速いほどになった。ノートも、国語・社会ではPC入力を使い、算数などの数式があるものは入力しづらいので紙のノートなど用途に合わせて自分で選択して使えるようになった。

1月、原籍校に戻る時期が迫ってきて、「原籍校でも授業中、PCを使ってみたい」と意欲を示している。現在、原籍校へのPC導入に向けて移行支援中である。



＜ファイルに綴じられた社会のノート＞

【③場に合わせた表現に関すること】

自己表現の場を多く設定して、周りに認めてもらい、自信をもてるようにするために

～「分教室と交流しよう」～苗を育てる活動を通して～



NTTが開発したテレビ会議システム。光京都ネットで京都市の小中学校などで活用可能。当校では、「テレビ会議」と呼んで、日常的に使っている。

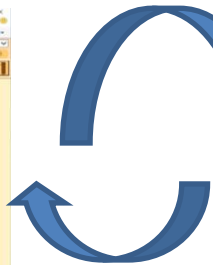
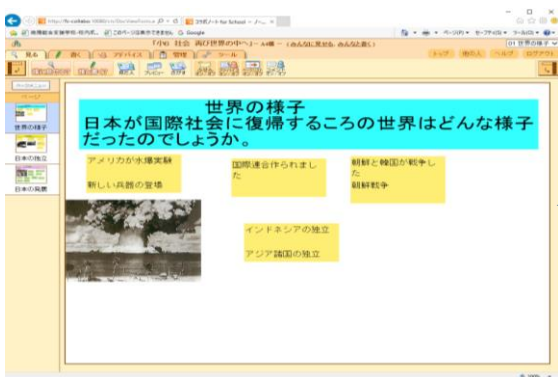
分教室には、植物を持ち込めないので、分教室の子どもたちに代わって、畑に種や苗を植えて水やりなどの世話をしている。まず、前の時間に、自己紹介をした。その後、中継をしながら種や苗を植えた。照れながらだったが、分教室の子どもたちに自分から話しかける場面もあった。

このような前に出て話す機会を通して、相手のことを考えて発言する場面も増えてきた。



聞き手を意識した話し方を身に付けるために

日々の学習の中で、コラボノート*を使って、意見文を出し、話したいことをまとめる取組をおこなった。「コラボノートでまとめる」「みんなの前で発表する」という取組をルーティン化したことで、相手を意識した話し方ができるようになってきた。



日々の学習で話す内容を整理し、発表のために簡潔にまとめる

聞いている人がわかりやすいように発表する

*コラボノート：正式名称「コラボノート for School 学校交流サイト」交流・協働学習用教育ソフト。学校間の交流や児童生徒同士の協働学習で、付箋に考えを書いて意見交流するためのもの。当校では、主に本校と分教室との交流に使っている。

〈気づきに関するエビデンス〉

【主観的気づき】

- ①自分でメニューを考えて作ることで、食生活についてふりかえることができたのではないかな。
- ②書きの代替手段を身に付け、日々の学習の中でストレスなく使えるようになり、自己肯定感があがったのではないかな。
- ③自分の感じたことや考えを短くメモ化することで、内容が整理され、学習に合わせた表現ができたのではないかな。

【①食事や体調のコントロールに関すること】

～食事記録を通して～

食事記録の写真を見て、自分の週末の食事について右のように話をしていた。初めは、食べたものの大きさや豪華さを強調する話が多かったが、「ぼくの食事ってどう思う？」と自分の食事について振り返る発言が出てきた。

	児童の言葉の変化
9月	「見てみて！こんなに大きい肉食べた！」
12月	「先生、ぼくの食事って、どう思う？」 「メロンパンが多いよね…」。

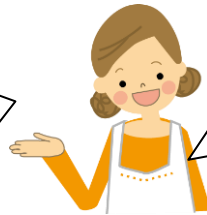
～週末クッキングを通して～

1月頃から、レシピ検索の時、「肉巻きの野菜は何がいいかな。白菜とチンゲン菜ならどっちがいいかな。」と、本児が言ったので、指導者が「カロリーを調べてみたら？」と言うと調べ始めた。「カロリーはチンゲン菜の方が低いけど、白菜の方が栄養価が高いから白菜にする。」と話した。カロリーだけでなく、野菜のいろいろな種類の栄養素など自分の健康面にも目がむくようになってきた。

外泊中は、家でゲームや動画サイトを見ることが多く、家の外に出ることを嫌がっていた本児だが、母と一緒に材料を買いに出かけることが多くなり、余暇の過ごし方が変わってきた。また、ヘルシーケーキの検索の時に、「作って（地元の）友達にもっていこうかな。」と話すこともあった。

最近では、将来の夢として、「料理にたずさわる人になりたい。」と話すようになった。また、保護者も本児が料理を意欲的に作る姿を見て、本児が変わっていく姿を実感されている様子を連絡帳に書いてきてくれた。

土曜日一人で初めて自分の力だけでどんぶりを作ることができました。みんなに味見して～と食べさせてくれました。とてもおいしくできていて本人も満足でした。（11月）



今週の夕食は、〇〇が一人で作ってくれました。料理をするのがとても好きなんだと。最近私が体調不良でした。今日も僕が作ると、とても助かりました。日々頼もしくなっていて、とてもうれしく思います。（2月）

【②書きに代わる手段に関すること】

現在、ほぼみんなと同じペースで入力によるノートづくりができるようになり、本児の書きに代わる手段になってきたと考えられる。

PCで入力したノートのファイルを見せて「先生、いっぱいたまってきたやろう」とうれしそうに話してくれたことがとても印象的だった。今まで、ノートを見返すことがなかった本児にとって、「自分が書いたノート」は、とてもうれしかったことと思う。

また、「（キーボードは）将来的に小さくなるでしょ。大きいカチカチができるようになってきたから、（小さいものを）練習していくわ。」と、自分から話すこともあり、入力に対する意欲もあがったことが分かる。

先生、ノートいっぱい、たまってきたやろう♪



～入力の速度について～

担任は国語や社会の授業で、学習のめあてを書く時に時間を決めている。前期には、本児の入力が遅かったため5分に設定しても延長か後で入力するように声をかけていたが、現在は2分で入力できるようになった。

～本児の文集から～

1月、本児は文集の中で、「パソコンで変わったこと」という題で以下のように書いた。(抜粋)

僕は字を書くのが苦手です。きれいに書きたいと思っても、なかなか書けません。だから字を書くことが嫌いになりました。でも、今は字を書く時に、パソコンを使っています。なぜパソコンを使っているかというと、**読める字でノートを作るためです。** もう一つ理由があります。それは将来に役立つかもしれないからです。

ワードでノートを取り始めたときは使いづらくイライラしていました。でも、練習を続けた今では、とても**楽になりました。**「寿司打」というアプリでキーボードを見ずに、パソコンを打てるようになりました。

僕はパソコンを使い始めてから性格もよくなりました。明るくなったと思います。なぜ明るくなったか分からないけど、おそらく**パソコンを使って自信がついたから**明るい性格になったと僕は思います。僕は、パソコンを使えるようになって、こんなに変わることができました。だから、もっともっとパソコンを使い、もっとパソコンのことを知りたいです。

以上の文集から、パソコンが書きの代替手段になって、今まで書くことができなかったことから楽にノートづくりができるようになったことが分かる。(部分) また、自己理解もすすみ、児童の自己肯定感があがり、自信がつき、(部分) 将来への希望をもっていることが分かる (部分)。

～「僕の漢字の覚え方辞典」作りをとおして ～

本児は漢字はすらすらと読むが、漢字の形を想起して書くことに困難がある。しかし、いつも本児は、「みんなと同じように漢字を書きたい。」と話している。その気持ちに寄り添うために、何かいい方法はないかと考えた。すると、本児の漢字の覚え方に特徴があることが分かってきた。漢字をパーツ分けして、言葉に置き換えて覚えていることが分かった。その本児の覚え方を形にできないかと思い、「僕の漢字の覚え方辞典」を作ることにした。



Microsoft「特別支援教育でのPowerPoint活用」

どうやって覚えている?

「う」に「干す」「ちょん」

「う」に「干す」「ちょん」

「う」に「干す」「ちょん」

①本児の覚え方を確認 ②パーツを選択してグループ化 ③アニメーションをつける ④録音

9月から週1回で取り組んできたが、本児が作るには、グループ化の操作などが難しく、時間がかかった。しかし、本児の覚えやすい方法は分かったため、現在は、担任が作っている漢字のパーツを色分けしたものを使って覚え書く練習をしている。大きいマスを用意し、時間をかけると書くことができるが、画数が増えると想起は難しい。しかし、12月、PC入力が速くなり本児の書きの代替手段になりつつあるにも関わらず、「漢字をがんばりたい。」という目標を立てた。本児の「みんなと同じように書いてみたい。」という気持ちの表れだろうと思い、PC入力もすすめつつ、本児の気持ちに寄り添っていきたいと考えている。



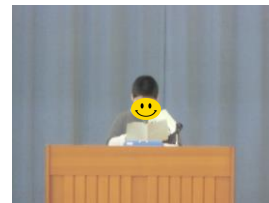
<唱える漢字を元に作っている漢字の資料>

【③場に合わせた表現方法に関すること】

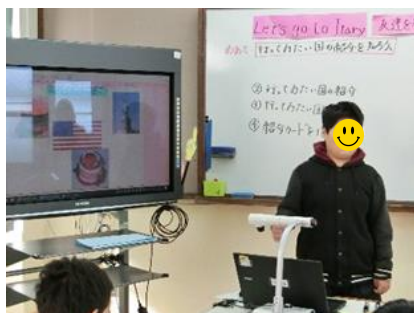
日々の学習の中で、自分の考えをコラボノートでメモ化してまとめてから文章にする取組を行った。7月頃は、読書感想文を書くにも数行しか書けなかったが、11月頃にはPC入力を使い、自分の考えを原稿用紙1枚程度にまとめられるようになった。1月、上記の文集では原稿用紙2枚分書くことができた。

～児童生徒会の活動から～

本児は、4月当初は、「自分はできない」ということが多く、自信がない様子であった。4月の児童生徒会の役員立候補の時期、6年は2人の中から一人は立候補者を出すことになった。本児は積極的ではなかったが、先生たちからの後押しもあり、副会長に立候補をした。5月の全校児童・生徒の前での立ち合い演説会では、うつぶき加減で原稿をぼそぼそと読むのが精一杯だった。



前期は児童会の副会長・後期は小学部の図書委員長として児童生徒会活動の参加や日々の学習での発表の積み重ねから、少しずつ前で話すことにも自信が出てきた様子であった。当校は少人数のため、前に出る機会が多く、最近ではその場を楽しく感じている様子で、顔もしっかりあがり自信をもって役割を担えるようになってきた。



11月 クラスでの発表時



12月 全校集会で司会をした時

【今後の見通し】

- 原籍校の先生や周囲の子どもたちへの理解や機器の導入についての話をすすめ、原籍校でも書きの代替手段としてPC入力ができるようにする。また、原籍校への移行を経て、中学校でもPC入力ができるようにする。
- WordだけでなくExcelにも興味をもっているため、Excelジュニア検定などを提案し、よりPCの技術向上につながるようにする。
- 退院後も、自らの食生活の振り返りや生活の中での楽しみのため、保護者の協力を得て、継続した食事作りができるようにする。